

ショートフィルムにみる日本の文化

実施日：平成29年2月27日～3月4日 於：インド（ムンバイ、デリー）

■ 派遣専門家



東野正剛
ショートショート
フィルムフェスティバル & アジア
フェスティバル・ディレクター

カリフォルニア州ペPPERDAIN大でジャーナリズムを専攻。卒業後、渡仏。ロサンゼルスでショートフィルム制作、ハリウッド映画の製作に携わる。現在は「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」のフェスティバル・ディレクターとして、日本のショートフィルムの海外への発信にも積極的に取り組まれています。

■ 事業概要

●ムンバイ



インド政府映画局長訪問



在ムンバイ映画ソサエティと共催の
ショートフィルム上映会



インド映画関係者との意見交換会

●デリー



在インド日本国大使公邸での
ショートフィルム上映会



上映会終了後、参加者から
質問を受けている様子



Tribune紙からのインタビュー

■ 実施結果

インドのデリーと映画の都市として「ボリウッド」の名称でも知られるムンバイの2都市で、ショートショートフィルムフェスティバル&アジア フェスティバル・ディレクターの東野正剛さんが映画関係者、映画を学ぶ学生、文化・芸能関係者等に向けてショートフィルム上映会と、その日本の文化的要素についての講演会を行いました。上映作品は、齊藤工監督の「半分ノ世界」、宮崎光代監督の「キャンとスロちゃん」、渡邊世紀監督の「未来のカケラ」、そして牛島悟郎監督の「カラズ オブ ライフ」です。現地の映画関係者との意見交換も行われ、継続的な映画上映会の実施や共同での映画制作の要望が寄せられました。また、現地メディアからの取材対応も行い、現地Tribune紙、ウェブメディア等で多数取り上げられました。